

会 議 録

会議の名称	小清水町防災拠点型複合庁舎建設検討委員会 第12回会議
開催日時	令和2年11月25日(水) 10:00~12:10
開催場所	中央公民館 大ホール
出席者	別紙のとおり
議 題	1 基本・実施設計について (1) にぎわいのある空間について (2) フェーズフリーについて (3) 平面計画について (4) 立断面計画について (5) 設備計画について
配布資料	資料1 第11回会議(ワークショップ)でのご意見と対応 資料2 にぎわい施設計画 資料3 にぎわい施設計画(ランドリー区画) 資料4 フェーズフリーの方向性 資料5 平面計画、立断面計画、設備計画
会議録の作成方針	要点記録

審議内容	1 基本・実施設計について
(1) にぎわいのある空間について (説明：乃村工藝社)	
①じゃがいもストリート	
中央の階段は座れるスペースを確保し、階段、壁は町の基幹産業である農業を象徴する畑の土を練りこんだ材料で、柔らかいイメージになるような仕上げとし、ポテチをイメージした照明を天井から下げるように検討している。	
②にぎわいゾーン	
階段同様に土壁を使ったカウンターを配置し、フィットネスの受付や地場製品の販売、パン工房やカフェエリアの運営を行うイメージとしている。	
ランドリーは、OKULABのブランドイメージをそのまま採用し、床はモルタル仕上げとし、カフェとのエリア分けをするように計画している。	
ジムスペースは、南側は大きなガラスで開放的な空間とし、床は屋外テラスと同じ仕上げをすることで外に出やすいイメージとしている。スタジオ以外は壁を設置せず、フレキシブルに使用できる計画としている。	
コミュニティスペースは、様々な用途で利用できるように稼働できる家具やシンク、カウンターを配置し、落ち着いた雰囲気が求められる子どもの自習や打ち合わせに利用するミーティングスペースとガラスのパーテーションによってエリアを区分する。	
③ランドリー (説明：OKULAB)	
人口規模や利用状況の想定により、洗濯乾燥機5台、乾燥機を7台、洗濯機を2台、乾燥機付きのスニーカー用洗濯機を1台配置する計画となっている。	
配置イメージは、別紙のとおり。	
(2) フェーズフリーについて (説明：アトリエブंक、乃村工藝社、町)	
災害発生時の5段階の時系列で対応する機能について、町としては施設全体、乃村工藝社としてはにぎわいゾーンを中心に検討している経過について説明し、今後はそれらをまとめ、あらゆる場面でも対応できる施設の運用マニュアルのように整理を進めることを説明した。	
フェーズフリー協会佐藤代表より、フェーズフリーは防災に関わる新しい考え方で、使用期限がある食料品や物品などは特に災害に備えて備蓄することは財源的にも難しいため、普段使っているもので安全な暮らしを実現することを目指していることを説明した。	

(3) 平面計画について（説明：アトリエブंक） 主な変更点のみ説明
①執務スペース
教育長室と執務室の連携をスムーズにするためレイアウトを変更し、1階フロアを有効に利用するためサーバー室を地階に変更し、空きスペースを書架などを配置するサポートスペースに変更した。
2階議場横にあった展望バルコニーを廃止したことで余裕ができたスペースを議場内の収納や議員ロッカー室の設置、執務スペースの拡張を図り、セキュリティラインを明確にするためにトイレなどの配置を変更した。
地階は、災害備蓄品倉庫を大きな倉庫内に統合、職員専用としていたトイレを来庁者側からも入れるように変更している。また、夜間や休日の来庁者の対応を行うため、警備員室を来庁者が出入りできる主出入口2付近に移動した。
②にぎわいゾーン
町民の作品展示などができる棚やラックスできるラウンジコーナーの設置、フィットネスゾーンは効果的な事業展開ができるようにレイアウトを変更した。
2階には、屋上ひろばにつながるブリッジを眺望スペースとして設けている。
(4) 立断面計画について（説明：アトリエブंक）
落雪や雨だれが懸念されていた2ヶ所のハイサイドライトは、南側は陸屋根に変更して部分的にハト小屋を設置、北側は陸屋根と複合した形状に変更した。これにより、ハイサイドライトは眺望を確保しつつ、冬期の日射を積極的に取り込み、夏期は遮る形状となっており、ベンチュリー効果によって自然換気が期待できる。
外壁は、本計画ではプレキャストコンクリートを想定しており、擁壁の一部には、内装と同様に土壁の採用も検討している。
(5) 設備計画について（説明：アトリエブंक）
これまで説明してはいなかったが、温泉熱利用の実現性が高くなったため、温泉熱を含めた空調システムを検討していることを説明した。災害に備えてライフラインを複数利用するハイブリッドで計画しており、CO ₂ の削減、ライフサイクルコスト、国の補助金などを考慮しながら、今後も比較検討する。
現時点では、執務スペースはガス、電気のエアコンで冷暖房、にぎわいゾーンは温泉熱の床暖房と電気のエアコンと考えている。

【質疑応答】

■ カフェは有人か無人か、また、パン工房は初めて聞いたが販売を行うのか。

→ カフェの運営方法は、現時点では決まっていない。パン工房についても、どの様に運営するのか、実際にパンを販売するのか未定であり、一つの案として掲載している。

■ ランドリーの台数は利用人数を考えて求めているのか。

→ 根拠となる資料は添付していないが、ランドリーはシュミレーションによって必要な台数を求めて配置を計画している。

■ じゃがいもストリートの大階段はいい空間だと思うが、都会的な印象が強く、職員が昇降するのであれば座る人がいるのか疑問である。また、春先には、汚れた靴で入ってくる人もいるので、管理が大変ではないか。

→ できるだけ町民に使ってもらえるように今後も検討していく。なお、執務スペースに職員用の階段があるため、じゃがいもストリート側の階段は、職員の利用はほとんどないと考えている。

■ にぎわいゾーンは親子のたまり場になるように計画を進めてきたはずだが、子どもたち（幼児）が遊べるスペースがない。

→ にぎわいゾーンの家具は稼働できるものを置く予定であるため、実施設計を進める中で検討する。

■ 地階の展示ギャラリーの運営をどうするのか、スペースが足りないのではないか。

→ 運営方法は、今後検討するが、壁に絵などを掲示することを考えている。

地階は、薄暗いイメージであるため、待合ホールとトイレをつなぐ廊下として、また、国道側の顔として有効活用したいと考えている。

■ 地階は、ショーウインドウのように明るくして欲しい。

→ 国道を走る車両からも見える位置であるため、有効活用したい。

■ 2階のこしみずサロンは、面積が狭いためサロンとは言えないと思う。

→ 2階まで足を運んでもらうため、屋上ひろばに向かうブリッジに眺望を楽しめるスペースを設けたが、用途や呼び方については今後検討する。

■ にぎわいゾーンの家具を可動式としているが、キャスターが付いていると使い方によっては床を傷つけてしまうのではないか。

→ 床材も含めて、実施設計の中で検討していく。

■ ランドリーは、24時間対応できるようにしているが水廻りがなく、深夜などはセキュリティラインで区切られると建物内のトイレが利用できない。

→ 水廻りは、OKULAB提案の図面には記載されているとおりに計画を進める。
トイレについては、現在の外トイレを今後も維持していくため、そちらを利用して欲しい。

■ 発電機などの機械は屋上に設置してはどうか。

→ ハザードマップに記載のとおり千年に一度の大雨でも浸水区域に入らないと想定された場所であるため、また、完成後のメンテナンスや機器更新作業の効率を考慮して、地階に設けることとした。

■ 地階のトイレは並べて配置してはどうか。

→ 実施設計の中で検討する。

■ 1階執務スペースに職員用トイレがないが、身障者用だけでも配置してはどうか。

→ 1階のにぎわいゾーンのトイレを主として使うことで、職員からの同意を得ており、エレベーターを使うことで地階、2階の身障者用トイレも利用可能で、施設としては十分な数を設置している。

■ 温泉熱の利用するのであれば、足湯を設けて欲しい。

→ 庁舎内には難しいが、外構計画で検討する。

【北大公共政策大学院客員教授 石井吉春氏のコメント】

持続可能エネルギーの活用、温室効果ガスの削減のため、今回の設備計画で説明のあった温泉熱の利用は大きな前進になると考えている。

にぎわいゾーンは、民間の活力を使うのであれば、事業者が柔軟に動けるように考える必要がある。

執務スペースのレイアウトも検討されているが、職員が減少すること、ペーパーレスへの取り組みなど将来の状況も念頭に入れ、柔軟な発想で検討して欲しい。